

東洋大学公認ボランティアサークル「学ボラ」発足 20 周年記念講演 『【東洋大学×旧山古志村×能登】地域共創シンポジウム — 被災からの復興と持続可能なコミュニティを考える —』を開催

東洋大学（東京都文京区／学長・矢口悦子）は、本学公認ボランティアサークル「学ボラ」(<https://www.instagram.com/toyo.gakubola/>) の設立 20 周年を記念し、『【東洋大学×山古志×能登】地域共創シンポジウム — 被災からの復興と持続可能なコミュニティを考える —』を 1 月 31 日に本学白山キャンパスにて開催しました。

学ボラは、2004 年に発生した新潟県中越地震を契機に、被災した旧山古志村（現新潟県長岡市）の復興支援を目的として学生主体で発足しました。以来 20 年にわたり、地域と継続的に関わるボランティア活動を展開しています。この知見は、現在積極的に取り組んでいる能登半島地震のボランティア活動に活かされています。本学では、創立者・井上円了の建学精神「諸学の基礎は哲学にあり」のもと、「他者のために自己を磨く」人材育成に注力し、多様な社会貢献活動を推進しています。この一環として、「学ボラ」をはじめとする学生主体の活動を支援し、学びを社会に還元する実践を続けています。

本シンポジウムは、「学ボラ」の 20 年の歩みを振り返るとともに、2024 年に大きな被害を受けた能登半島での復興支援の経験を踏まえ、被災地との関係づくりや持続可能な地域コミュニティのあり方について考える場として開催しました。

シンポジウム当日、第一部は「山古志が紡ぐ 20 年の軌跡」をテーマに、山古志住民会議（住民団体）の代表を務める竹内春華さんが講演し、新潟県中越地震発生から復興の取り組みとデジタル村民のシステムなどこれからの新たな挑戦についてお話いただきました。また、本シンポジウムを企画した「学ボラ」前総代表の伊藤楓真さんが 20 年間の学生のボランティア活動について報告と震災を知らない世代への継承について話しました。

第二部は、コミュニティ開発と観光まちづくりを研究する金沢大学 川澄厚志准教授をお招きし、トークセッションの問題提起として「能登の地理 学的特性と白峰の学生関係人口の構築」について講演いただきました。その後のトークセッションでは東洋大学社会貢献センター長高山直樹教授をモデレーターとし「能登地域で関係人口を増やし続けるには？」をテーマに山古志地域が導入しているデジタル村民の制度を足掛かりとして活発な意見交換が行われ、「関係人口」創出の可能性を探りました。



学ボラの 20 年の活動を語る伊藤楓真さん



トークセッションの様子

「学ボラ」前総代表伊藤楓真さんのコメント

今回のシンポジウムは、新潟県中越地震から 20 年が経った旧山古志村の復興の歩みと、現在の能登半島の復興支援の状況に共通点を感じたことがきっかけで企画しました。これまで学生ボランティアとして積み重ねてきた経験やノウハウを、これからの被災地支援にどう生かせるかを考える場にしたいと思ったのが出発点です。内容が専門的になりすぎず、参加した方にとって具体的なイメージを持ってもらえるように、専門の先生方にもご協力いただき、トークセッション形式で多角的に話し合える構成にしました。このシンポジウムを通して、参加者それぞれが「自分にもできることがあるかもしれない」と感じ、今後の行動につながるきっかけになればうれしいです。

【開催概要】

日時：2026 年 1 月 31 日（土）14:00～16:30

場所：東洋大学 白山キャンパス 井上円了ホール

共催：東洋大学 社会貢献センター／東洋大学 公認団体 学ボラ（旧学生ボランティアセンター）

後援・協力：東洋大学 能登復興支援団体 青いビブス／山古志住民会議

内容：【第一部】山古志が紡ぐ 20 年の軌跡

#1「20 年の取り組みと新たな挑戦」 竹内春華(山古志住民会議代表)

#2「20 年間の学生報告」 伊藤楓真(東洋大学 4 年・学ボラ前総代表・シンポジウム企画ディレクター)

【第二部】能登への学びと対話セッション

#1 ミニ講義「能登の地理 学的特性と白峰の学生関係人口の構築」

川澄厚志(金沢大学准教授)

#2 トークセッション「能登地域で関係人口を増やし続けるには？」

登壇者／竹内春華(山古志住民会議代表)、川澄厚志(金沢大学准教授)、伊藤楓真(シンポジウム企画ディレクター)、伊東航洋(東洋大学 4 年・青いビブス代表)

モデレーター／高山直樹(東洋大学社会貢献センター長)

【登壇者プロフィール】



＜山古志住民会議＞代表 竹内 春華氏

新潟県魚沼市出身。2004 年の中越地震で被災した旧山古志村の住民が暮らす仮設住宅内の山古志災害ボランティアセンターに所属し、生活支援相談員として活動。2021 年 4 月より、住民団体・山古志住民会議の代表を務め、デジタル技術を活用しながら地域づくりに挑戦している。



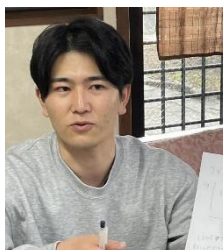
＜東洋大学 公認団体 学ボラ＞

東洋大学 4 年/シンポジウム企画 ディレクター/学ボラ 前総代表 伊藤楓真氏
三重県出身。大学 1 年時に訪れた“中越地震の被災地であった山古志村”での支援活動を通じて「社会課題を自分ごととして捉える姿勢」の重要性を実感し、学ボラの総代表を務める。本学の能登復興支援団体「青いビブス」の立ち上げに参画し、現在は被災地での活動にも取り組む。



＜金沢大学＞ 融合研究域融合科学系准教授 川澄厚志氏

茨城県出身。専門はコミュニティ開発と観光まちづくり。東洋大学国際地域学部国際観光学科助教、金沢星稜大学経済学部経営学科講師、金沢星稜大学経済学部経営学科准教授を経て、2021 年 10 月から現職。能登の各地で地域資源の活用を探る活動を行い、震災復興の中長期計画を検討する学内ワーキンググループ（里山里海創造WG）の委員も務める。



＜東洋大学 能登復興支援団体 青いビブス＞

東洋大学 4 年/青いビブス代表 伊東航洋氏
静岡県出身。2024 年の能登半島地震を機に災害ボランティアとして活動を始め、輪島市や七尾市で支援に取り組む。同年、本学の能登復興支援団体「青いビブス」の立ち上げに参画し代表を務め、地域と連携しながら能登半島の復興支援を推進している。

■東洋大学の能登半島復興支援について

2024 年 1 月の能登半島地震や 9 月の奥能登豪雨を受け、東洋大学では全学的な支援体制を構築するべく、現地視察等を経て学生・教職員による能登ボランティアチームを結成しました。現在まで計 242 日間にわたる継続的な現地ボランティア活動を実施し、学生延べ 221 名、教職員延べ 71 名が参加しました（2025 年 11 月現在）。2024 年の春季には石川県志賀町でがれき撤去などのボランティア活動を始め、5 月の連休や夏季にも輪島市、珠洲市で活動を実施。秋季には豪雨被害地域の汚泥処理や仮設住宅の支援、冬季には高さ数メートルに積もった雪かき作業等を行いました。2025 年度も途切れの無い復興支援を行い、被災地の未来を共に“想像”し、その実現に向けた“創造”的な活動を目指しています。被災者と共に活動する中で、復興だけでなく地域文化の継承や人々の「つながり」の大切さを認識し、今後も大学全体の知見を活かした包括的な支援を行っていく方針です。

参考：令和 6 年能登半島地震ボランティア（ボランティア支援室特設サイト、東洋大学報）

<https://sites.google.com/toyo.jp/volunteer/top/noto2024report>

https://www.toyo.ac.jp/about/gakuhou/backnumber/276_03_volunteer/index.html

■東洋大学のボランティア活動について

東洋大学は、創立者・井上円了の理念「諸学の基礎は哲学にあり」のもと、「主体的に社会の課題に取り組む」「他者のために自己を磨く」という教育理念、東洋大学の心を具現化するために、社会貢献を柱のひとつとした人材育成を行っています。その取り組みのひとつがボランティア活動であり、本学では学生団体、教職員・学生によるゼミ他の活動等、多岐にわたる社会貢献活動を実施しています。それらの活動を大学全体で支えるため、「ボランティア支援室」を設置し、ボランティア活動をするための情報提供や助言の他、専門スタッフ(ボランティアコーディネーター)配置、ボランティア先の開拓、学生とのマッチング、実施後の検証等を全学的に実施するなど、学びを社会に還元する実践を続けています。

参考：令和6年能登半島地震復興支援 Professor's Scoop

https://www.toyo.ac.jp/about/gakuhou/backnumber/276_04_professor/index.html

・学ボラ 公式Instagram

<https://www.instagram.com/toyo.gakubola/>

・青いビブス 公式Instagram

https://www.instagram.com/tu_noto/

・東洋大学ボランティア支援室

<https://sites.google.com/toyo.jp/volunteer/top>

【学校法人 東洋大学について】

東洋大学は1887年に哲学者・井上円了により「哲学館」として創立され、「諸学の基礎は哲学にあり」「独立自活」「知徳兼全」を建学の精神としています。創立者の志を受け継ぎ、東洋大学の教育理念である「物事の本質に迫って深く考え、考察を重ねること」を基礎とし、科学する力、実践する力を育てることで、地球社会の様々な課題に取り組む力を養うことを目指しています。

2025年度現在、白山、赤羽台、川越、朝霞キャンパスに14学部51学科専攻と大学院15研究科を擁する総合大学へと発展しました。 <東洋大学 HP> <https://www.toyo.ac.jp/>

【本件に関する報道関係の方からの問い合わせ先】

東洋大学 総務部広報課 TEL:03-3945-7571MAIL: mlkoho@toyo.jp